

## 「 山香中学校での取り組み 」

清原和子

杵築市の山香中学校に勤務させていただいて、四年目が過ぎようとしています。公共図書館時代に先輩司書の方たちから学んだ「図書館はサービス業である」という感覚を生かしつつ、「教育」という枠の中で生徒や教職員の先生方に本への興味・関心をかき立てる図書館であろうと試行錯誤の毎日を送っています。

我が校は、開校7年目。山香・太田地区の中学校四校が合併してできた中学校です。校区は広く杵築市の中でも人口が少ない地域をカバーしています。このため生徒はスクールバスで通学をしています。

また、三世代・四世代の同居家庭が多いのも特徴で、同居家族のために学校図書館から本を借りていく子どもも多数見られます。公共図書館の分館は配置されていますが、各家庭からの距離が遠く、子どもだけでは図書館へ行くことが困難であるため本を手にしようとすると、書店での購入もしくは学校図書館からの本を借りるしかない状況になっています。リクエストも多く、子どもたちは図書館に来て借りることが楽しみの一つになっています。

本の貸出はもちろんですが、今年度より力を入れて行っているのが、新聞の活用です。夏には大分県でNIE (Newspaper in Education 教育に新聞を) の全国大会が予定されています。このため県をあげて新聞を教材として活用しようと様々な取り組みが行われ、図書館のサポートが求められています。

我が杵築市では26年度から、小中学校すべての学校で図書館に新聞を1紙購読することができるようになり、その活用を各校で模索しているところです。

山香中学校では、次のような取り組みを行っています。

### 1. 閲覧スペース奥に新聞コーナーの設置

過去1年間分の大分合同新聞を半月ごとに綴じ、手に取りやすいように新聞閲覧コーナーを設置。

### 2. 気になる新聞記事pick upコーナー

図書館入り口にホワイトボードを設置。その日の新聞から、司書が気になった記事・読んでほしい記事を切り抜き、掲示。

### 3. 切り抜き新聞記事まとめコーナー

毎日切り抜いた記事を、内容別に分類。項目名が見やすいように棚に展示。

### 4. 各種掲示物の作成

教室前や図書館内に、「新聞のできるまで」「新聞の紙面構成」「新聞各紙の比較」などの掲示物を作成し、校内各所に掲示して新聞に親しめるようにする。

5. 教職員の先生方に対する新聞記事の紹介。(今年度後半提供したものの一部)

国語	・・・	24節気 東日本大震災その後
理科	・・・	ノーベル賞受賞者 重力波発見 113番目の元素発見
総合	・・・	イスラム国 PM2.5 アメリカ大統領選 東日本大震災関連
		など

教職員の先生方が新聞を読むことが望ましいが、業務の煩雑さや、通勤時間の長さなどから新聞をじっくり読む時間が確保できていないという現状があります。しかし、司書が積極的にその日の記事の中で授業に関連しているもの、興味を引きそうなものをあらかじめピックアップし、個別に紹介することが授業につながってきていると感じているところではあります。下準備ができていう状況であれば、教職員の先生方は意外と本や新聞を取り入れた授業をすぐにおこなってくれます。

担任の先生が紹介すると興味を持つ生徒が多く、その日の新聞を閲覧するために図書館へと足を運ぶ生徒が増えます。家族とも家庭で話題にする事もあるようで、家族の感想や考えを話しに来てくれる生徒もいます。

新聞を購読していない家庭が増えてきています。このため新聞自体になじみがなく、苦手意識を持っている生徒が多く見られます。その苦手意識を感じさせず、新聞に興味関心を持って見てほしい。いろいろな世界を垣間見ることのできるツールとして新聞を見る習慣をつけて卒業してほしい。そんな気持ちで毎日新聞記事をピックアップし続けています。

学校においては、教職員の先生方の協力なくして図書館運営は成り立ちません。先生方一人一人との密なコミュニケーションを構築し、先生方自身の利用をのばしていくことが、結果的に図書館全体の利用を増やすことにつながってきているのではないかと思います。

来年度以降も、生徒一人一人はもちろん、その家族や、教職員の先生方も見据えた図書館運営を心がけていきたいと考えています。

(きよはら・かずこ 杵築市立山香中学校 学校司書)